姶良町文化財調査報告書（1）

姶良町中世城館跡

1994年3月

鹿児島県姶良町教育委員会

姶良町文化財調査報告書（1）

姶良町中世城館跡

1994年3月

鹿児島県姶良町教育委員会

序　　文

平成５年10月21日に姶良町の人口は４万人を超え，鹿児島県内における将来性のある有力な地方都市として現在発展しつつあります。

市街地では人口増大に応じて，住宅供給が活発に行われ，それと平行して町の都市計画に沿った社会基盤の整備が着々と進みつつあります。

特に昭和63年頃より，開発の波は平野部から市街地近辺の山間部に及ぶようになり，大規模な宅地開発やゴルフ場造成が計画又は実施されるようになりました。

しかしながら，これら台地状の山間部には，歴史的景観をとどめた中世以来の貴重な山城が点在しており，その多くが未調査のまま開発の波にさらされることとなりました。

これらの状況を踏まえて，姶良町教育委員会では，中世城館跡を緊急性を要する重要遺跡と位置付けて，範囲確認の調査を実施することにしました。調査は，平成３年度から５年度までの３か年にわたって実施（町単独事業）しました。

この報告書は，姶良町教育委員会が埋蔵文化財包蔵地として把握した中世城館跡の調査記録をまとめたものです。

姶良町内には，戦国時代を中心とした中世の鹿児島の歴史を考える上で貴重な岩剱城跡・平山城跡・建昌城跡などの城が築かれ，今でも往時の姿をよくとどめていると考えられます。本書が姶良町の文化財保護や歴史研究のために活用されることを期待します。

発刊にあたり，現地調査・報告書作成に御指導・御協力をいただいた関係各位に対し，心から感謝の意を表します。また，貴重な論考をいただきました三木靖先生には衷心より謝意を表します。

平成６年３月

鹿児島県姶良町教育委員会
教育長　小　城　寛　治

例　　言

（1）　本書は姶良町教育委員会が，平成３年度から５年度にかけて行った中世城館跡の調査報告書である。

（2）　本書には，中世城館跡（特に山城跡）を中心に掲載した。また，文献・伝承などでその名がみられても位置・内容の明確でないものは記録だけにとどめた。

（3）　調査・整理・報告書作成にあたっては下記の先生方から指導助言を得た。

三木　靖（鹿児島短期大学学長）
谷口純男（姶良町文化財保護審議会会長）

（4）　本書の執筆・編集は下鶴が担当した。
○三木　靖先生には玉稿をいただき，第２章に掲載した。

（5）　本書掲載の写真は下鶴が撮影した。現地における地形測量には，測量助手として森岡幸子・川崎克代両氏の協力を得た。

（6）　第２章中の第１・２図は，昭和57年に復刻された青潮社刊行の「三國名勝圖會」から複製し，掲載した。

（7）　第３章の中世城館跡一覧表は，「鹿児島県の中世城館跡」（鹿児島県教育委員会昭和62年刊行）に掲載された姶良町の城館跡一覧表を参考に作成した。

（8）　第４章に掲載した城館跡周辺地形図は，姶良町都市計画課作成の都市計画図（縮尺2500分の１），姶良町商工林政課所蔵の姶良町森林基本図（縮尺5000分の１）を参考に現地の測量図と共に合成した。地形図中の朱色の円は，現地での実測が不可能であるか又は所在地が不明な城館跡についてのおおよその位置を示したものである。
今回の調査で明かとなった山城跡の最小の範囲は，地形図中に朱色で表現した。ただ，この範囲は今後の調査で拡大する可能性があり，山城跡のすべての範囲を含むものではないことをお断りしておきたい。

（9）　小字図は，姶良町税務課所蔵の「地籍集成図（縮尺2000分の１）」及び「固定資産・土地・小字早見表」を参考にして新たに作成した。この小字図は，前記の城館跡周辺地形図上に小字界を破線で示し，小字名（黒色）を記入した。また，特に城館跡と関連があると思われる小字名は，朱色で記入した。なお，小字名の中で明かに誤字・読み間違えと思われるものは訂正をして表記した。

(10)　各城館跡について行った実測の図面は，下鶴がトレースした。今回の調査では城跡の主要部を把握することに主眼をおいたため，調査区域周辺にはまだ曲輪が存在し，城館跡の範囲が拡大する可能性がある。また，実測によって作成した図面は，調査時点の現況図であり，各城館跡築城時の姿を忠実に復元したものではない。以上の理由から図面の名称は，縄張り図という名称ではなく，「□□城館跡実測要図」と表現した。

(11)　「各城館跡実測要図」（以下「要図」という。）における遺構の表現方法について以下説明をする。

「要図」における斜面部分は，基本的にはケバ表現とし，縮尺の大きな地形図のあるものは一部に等高線を用いた。

曲輪・土塁・空堀などの遺構には，便宜上番号を付してある。番号の順序は，調査した城館跡全体から見て，枢要部と思われる区域から若い番号をつけてある。また，伝承や地形からみて入り口と思われる場所には，大手口又は搦手口と表記した。

図中の矢印は，城跡の中心部に向かう最短の道筋を示してみた。但し，他の道からの進入も可能である。

「要図」の解説上，必要な箇所にはアルファベットを記入した。

「要図」は，二色刷りとし，土塁及び空堀に朱色の着色を施した。土塁はその頂上部又は平坦部を朱色で塗りつぶした。空堀はその堀底部分に朱色のアミを掛けた。また，自然地形であるシラスの浸蝕谷であっても空堀の機能を有するものにはアミ掛けを施した。

(12)　「各城館跡実測要図」の中で主な城跡については，参考として断面図を図中に掲載した。断面箇所は平面の「要図」中に一点破線で示した。

(13)　トレース及び図版作成には，森　文子・小濱香苗氏の協力を得た。

(14)　図面に表記された標高は，海抜絶対高である。

(15)　写真撮影及び写真図版作成は下鶴が行った。

本　文　目　次

序　　文
例　　言

第１章　調査の概要
　第１節　調査に至るまでの経緯 …… 9
　第２節　調査の組織 …… 9
　第３節　調査の経過 …… 10
　第４節　調査の方法 …… 10

第２章　姶良町内の中世城館跡について
　　鹿児島短期大学学長　三　木　靖 …… 12

第３章　中世城館跡一覧
　第１節　中世城館跡一覧表 …… 20
　第２節　中世城館跡分布図 …… 27

第４章　中世城館跡調査
　1　岩剱城 …… 30
　2　平松城 …… 35
　3　下城 …… 39
　4　新城 …… 43
　5　諏訪城 …… 47
　6　高城 …… 49
　7　建昌城 …… 52
　8　山田城 …… 62
　9　古城 …… 66
　10　中城 …… 68
　11　萩峯城 …… 70
　12　為朝城 …… 72
　13　上脇城 …… 75
　14　平山城・高尾城 …… 76
　15　帖佐館 …… 83
　16　惣陣鹿倉山 …… 90
　17　茶臼城 …… 91
　18　城瀬城 …… 91
　19　中甑城 …… 92

第５章　ま　と　め …… 93

写　真　目　次

写真１　岩劔城 …… 31
写真２　平松城跡石垣 …… 35
写真３　下城跡遠景 …… 40
写真４　北山若宮神社・梅北神社 …… 40
写真５　新城跡遠景 …… 43
写真６　諏訪城跡遠景・諏訪神社 …… 47
写真７　高城跡遠景 …… 49
写真８　住吉神社 …… 50
写真９　建昌城跡遠景 …… 52
写真10　建昌城跡大手口・搦手口 …… 59
写真11　建昌城跡各曲輪 …… 60
写真12　建昌城跡各土塁 …… 61
写真13　山田城跡遠景 …… 62
写真14　山田城跡遠景(大手口) …… 65
写真15　古城跡遠景 …… 66
写真16　中城跡遠景 …… 68
写真17　萩峯城跡遠景 …… 70
写真18　為朝城跡遠景 …… 72
写真19　諏訪山板碑 …… 72
写真20　上脇城跡遠景 …… 75
写真21　平山城跡遠景 …… 77
写真22　平山城跡・帖佐八幡神社 …… 82
写真23　帖佐館跡遠景 …… 83
写真24　帖佐館跡石垣 …… 83
写真25　帖佐館井戸跡・惟新公記念碑 …… 89
写真26　惣陣鹿倉山遠景 …… 90

表　目　次

中世城館跡一覧表１ …… 20
中世城館跡一覧表２ …… 21
中世城館跡一覧表３ …… 22
中世城館跡一覧表４ …… 23
中世城館跡一覧表５ …… 24
中世城館跡一覧表６ …… 25
中世城館跡一覧表７ …… 26

挿　図　目　次

第１図　三国名勝図会新正八幡宮・米山薬師堂 …… 14
第２図　三国名勝図会岩劔神社 …… 18
第３図　中世城館跡・分布図１（姶良町南部） …… 27
第４図　中世城館跡・分布図２（姶良町北部） …… 28
第５図　岩劔城跡周辺地形図及び小字図 …… 30
第６図　岩劔城跡実測要図（折込み） …… 33
第７図　岩劔城跡・平松城跡周辺地形図及び小字図 …… 35
第８図　平松城跡平面図 …… 36
第９図　平松城跡石垣実測図（折込み） …… 37
第10図　下城跡周辺地形図及び小字図 …… 39
第11図　下城跡実測要図（折込み） …… 41
第12図　新城跡周辺地形図及び小字図 …… 44

第13図　新城跡実測要図（折込み）…… 45
第14図　諏訪城跡周辺地形図及び小字図 …… 47
第15図　諏訪城跡見取り図 …… 48
第16図　高城跡周辺地形図及び小字図 …… 49
第17図　高城跡実測要図 …… 51
第18図　建昌城跡周辺地形図及び小字図 …… 53
第19図　建昌城跡実測要図（折込み）…… 55
第20図　建昌城跡土塁断面図 …… 57
第21図　建昌城跡空堀断面図 …… 58
第22図　山田城跡周辺地形図及び小字図 …… 62
第23図　山田城跡実測要図（折込み）…… 63
第24図　古城跡周辺地形図及び小字図 …… 67
第25図　古城跡実測要図 …… 67
第26図　中城跡周辺地形図及び小字図 …… 68
第27図　中城跡実測要図 …… 69
第28図　萩峯城跡周辺地形図及び小字図 …… 70
第29図　萩峯城跡実測要図 …… 71
第30図　為朝城跡周辺地形図及び小字図 …… 73
第31図　為朝城跡実測要図 …… 74
第32図　上脇城跡周辺地形図及び小字図 …… 75
第33図　鍋倉地区地形図及び小字図 …… 76
第34図　平山城跡周辺地形図及び小字図 …… 77
第35図　平山城跡実測要図（折込み）…… 79
第36図　高尾城跡実測要図 …… 81
第37図　帖佐館跡周辺地形図及び小字図 …… 84
第38図　帖佐館跡実測平面図 …… 86
第39図　帖佐館跡石垣実測図（折込み）…… 87
第40図　惣陣鹿倉山周辺地形図 …… 90
第41図　茶臼城跡周辺地形図 …… 91
第42図　城瀬城跡周辺地形図 …… 91
第43図　中甑城跡周辺地形図及び小字図 …… 92

第1章　調査の概要

第1節　調査に至るまでの経緯

姶良町教育委員会では，建昌城跡における『(仮称) 姶良町歴史と憩いの森公園計画構想』に基づき，昭和63年度から平成2年度にかけて確認調査を実施した。その結果，戦国末期の姿をとどめた保存状態の良好な山城跡であることが判明し，現在遺構を保存しながら公園に活用する方向で計画が進められている。同じく昭和63年3月には，山田地区におけるゴルフ場建設計画が起こり，予定地内に山田城跡が含まれていた。このため町教育委員会では開発者と事前協議にはいり，区域内での保存を前提にした設計変更を要請した。また，平成元年6月には姶良町都市計画課から町総合運動公園の取付け道路工事に伴う埋蔵文化財の調査依頼があった。道路工事予定区域には，周知の遺跡である諏訪城跡があり，設計変更により西側の曲輪を保存することができた。この他に鍋倉地区でも民間の開発者による大規模な開発計画が持ち上がり，平山城跡及び新城跡の範囲確認が早急に必要となった。

このように昭和63年度から平成2年度にかけては，山間部における大規模な開発計画が多数進行しており，常に詳細な埋蔵文化財の資料が求められていた。開発者側の要請に応じられるように姶良町教育委員会では，基礎的な資料を備えておくために平成3年度から重要遺跡調査の一環として山城跡緊急調査事業を開始することとした。

第2節　調査の組織

本調査は下記の組織で実施した。

調査主体	姶良町教育委員会		
調査責任者	同	教育長	中山貞美（平成3年9月まで）
	同	教育長	小城寛治
	姶良町教育委員会社会教育課	課長	西脇　充（平成3年12月まで）
	同	課長	田口幸一（平成5年12月まで）
	同	課長	森　弘道
	同	係長	井上浩一
事務担当者	同	主査	下鶴　弘
事務補助者	同		新川京子
調査指導者	姶良町文化財保護審議会	会長	谷口純男
	同	委員	折田義幸
	同	委員	園田　繁
	同	委員	宮淵新蔵
	同	委員	丸尾安光
調査担当者	姶良町教育委員会社会教育課	主査	下鶴　弘
調査補助員	同		安田光孝（現姶良町土木課）
同	同		吉満力枝・森　文子（H3年度）
同	同		森岡幸子・川崎克代（H4～5年度）
報告書作成補助員	同		森　文子・小濱香苗（H5年度）

第３節　調査の経過

各年度の事業実施内容は以下のとおりである。平成３・４年度の事業費は，主に調査補助員（２名分）の賃金と需用費である。平成５年度の事業費には，本報告書の印刷費用が含まれる。

なお，調査日は担当職員が歴史民俗資料館との兼務であるため，毎週月曜日と金曜日に実施した。

○平成３年度

１．事　業　費　　３７０，０００円
２．実施期間　　平成３年７月～10月
３．調査城館　　帖佐館跡，岩剱城跡

○平成４年度

１．事　業　費　　４８０，０００円
２．実施期間　　平成４年７月～９月，平成５年３月
３．調査城館　　平山城跡，萩峯城跡，新城跡，高尾城跡
４．会　　議　　姶良町文化財保護審議会現地調査　10月23日，平成５年１月29日

○平成５年度

１．事　業　費　　８２０，０００円
２．実施期間　　平成５年６月～８月，11月～３月
３．調査城館　　古城跡，高城跡，為朝城跡，下城跡，中城跡，上脇城跡，中甑城跡
４．会　　議　　姶良町文化財保護審議会現地調査　平成６年１月20日，２月23日
　　３月22日

＊事業費合計　　１，６７０，０００円

第４節　調査の方法

鹿児島県教育委員会では，昭和57年から５か年にわたって中世城館跡調査事業を行っている。姶良町内におけるこの調査は，当時姶良町教育委員会に在籍した谷口純男氏（現姶良町文化財保護審議会会長）によって昭和58年に実施された。この時作成された中世城跡調査カードの写しは，谷口純男氏によって「姶良町中世古城跡調査」（以下「古城跡調査」という。）として一冊の本に製本され，社会教育課に保存されていた。この「古城跡調査」は，調査カードの項目に従って，現地調査の結果を踏まえ，詳細な記述がなされている。今回の調査では，「古城跡調査」の豊富な資料内容を最大限に活用させていただいた。ここで改めて，たった一人で困難な現地調査を行われた，谷口純男氏の御努力に深く感謝の意を表します。

平成３年度４～６月に「古城跡調査」をもとに山城跡の土地台帳作成を行った。最初に町都市計画図（縮尺１／2500）又は森林基本図（縮尺１／5000）へ城跡予想区域を設定し，その区